

歴史的事象の意味を考える力を育てる指導の工夫

—— 歴史キーワードを見付け、

「時空をこえた手紙」を書く活動を通して ——

長期研修員 大塚 努

《研究の概要》

本研究は、小学校歴史学習において、歴史上の人物から届いた「時空をこえた手紙」に返事を書く活動を軸に、歴史キーワードを見付け、考えて分かることを書くことにより、歴史的事象の意味を考える力を育てることを目指したものである。歴史上の人物から届いた「時空をこえた手紙」の記述から学習課題をつかみ、その課題に対する自分の考えを持つことができるよう調べ学習を進める。「追究する」過程では調べて分かることから歴史キーワードを見付け、複数のキーワードを比較・関連・総合し、考えて分かることを書く活動を通して事象の特徴をつかむ。その知識をもとに、歴史的事象についての価値判断をしながら、自分の考えを表現する。この活動を通して、歴史的事象の意味を考える力を育てることをねらうものである。

キーワード 【社会—小 歴史的事象の意味を考える 時空をこえた手紙 歴史キーワード】

群馬県総合教育センター

分類記号：G02-02 平成27年度 255集

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説社会編では、(i)改善の基本方針の中で、「社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させ、それらを活用する力や課題を追究する力を育成する観点から、各学校段階の特質に応じて、習得すべき知識、概念の明確化を図るとともに、コンピュータなども活用しながら、地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することをいっそう重視する方向で改善を図る」としている。また、第4章 指導計画の作成と内容の取り扱いでは、指導上の配慮事項として(1)各学年の指導については、児童の発達の段階を考慮し社会的事象を公正に判断できるようにするとともに、個々の児童に社会的な見方や考え方が養われるようにすることを挙げている。

群馬県は平成26年3月、第2期教育振興基本計画を発表し、その基本施策2「確かな学力の育成」で具体的な取り組みとして「基本的・基礎的な知識・技能を活用し課題解決を図る力の育成」をすると打ち出している。これを受け、群馬県教育委員会は平成27年度学校教育の指針において、社会科では、「①単元を貫く学習課題を設定すること」と「②教師が児童生徒に読み取らせる事柄や情報を明確にして資料を提示すること」を指導の重点としている。これらのことから歴史学習においては、単元を貫く課題解決の学習を通して、児童に人物の働きや歴史的事象の意味について考えさせ、社会的な見方や考え方を養うことが必要とされていると考える。

日本は近年、総人口の減少、少子高齢化が進み、将来においては生産年齢人口はさらに減少していくことが予想される。また、知識基盤社会への世界的な転換の中、様々な変化に対応しうる人材、知識・情報を活用できる力が必要とされる。この力は社会科においては社会的事象を多面的・多角的に捉えたり、公正に判断したりすることができる力と考える。

先行研究には、思考力を高めるために、資料の活用や複数の事象の関係を図に表すなど「比較・関連・総合」を具体的に示したものが多くある。それらは考える活動としては有効であるが、事象の特徴を捉えるに留まるものと思える。さらに歴史的事象の意味について考える力を育てるには、「比較・関連・総合」して捉えた複数の事象の特徴を再構成して、意味を考える手立てが必要であると考え。

協校校での社会科の学習における児童の実態を見ると、資料を読み取り、基礎的・基本的知識を身に付けることは比較的できている。しかし、それらの知識が他の知識と関連付けられていないことが多く、知識を活用することが不十分である。これは社会科における思考力を高める学習が不足していることに起因するところが大きく、知識を再構成し学習した歴史的事象について考えたことを表現する活動の必要性を感じる。

そこで本研究では、歴史的事象について児童なりの価値判断を促す問いかけをするために、歴史上の人物から届いた「時空をこえた手紙」に返事の手紙を書くという学習の流れを作る。この問いかけに答えるために、追究する過程では、毎時間、歴史的事象の特徴を捉える上で重要な言葉「歴史キーワード」を見付け、それらを「比較・関連・総合」させ、「考えて分かること」を書く活動を取り入れる。この二つの手立てを用いることで、歴史的事象の意味を考える力を育てることができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

小学校社会科の歴史学習において、歴史的事象の意味を考える力を育てるために、「歴史キーワード」を見付け、考えて分かることを書く活動を取り入れ、歴史上の人物から届いた「時空をこえた手紙」に歴史的事象について児童なりの価値判断をしながら返事を書くことの有効性を明らかにする。

Ⅲ 研究仮説（研究の見通し）

- 1 「つかむ」過程において、歴史上の人物からの「時空をこえた手紙」の記述を基に学習を進めることにより、単元を貫く学習課題をつかみ、課題に対する予想を立てることができるであろう。
- 2 「追究する」過程において、「歴史キーワード」を見付け、それらを「比較・関連・総合」して、「考えて分かること」を書く活動を設定することにより、歴史的事象の特徴を捉えることができるであろう。
- 3 「まとめる」過程において、歴史上の人物からの「時空をこえた手紙」に返事の手紙を書く活動を設定することにより、歴史的事象について事実や捉えた特徴に基づいた児童なりの価値判断を促し、歴史的事象の意味を考える力を高めることができるであろう。

Ⅳ 研究の内容

1 基本的な考え

(1) 歴史的事象の意味を考える力を育てるとは

歴史的事象の意味とは、その歴史的事象が人々や社会に果たした役割や及ぼした影響であると考えられる。歴史学習においては歴史的事象の意味について、事実に基づいて検討していくことにより「思考力・判断力・表現力」は高まる。本研究では、歴史的事象について調べた事実に基づいて自分なりの考えを持ち、児童なりの価値判断ができるようにすることが「歴史的事象の意味を考える力を育てる」ことであると考えられる。

(2) 歴史キーワードとは

「追究する」過程において、課題解決のために資料から読み取った情報の中に、歴史的事象を捉える上で重要と思われる言葉を見付け出し、それらを「歴史キーワード」と定義し、その活用を図る。調べ集めた情報を比較・関連・総合させ、「歴史キーワード」を見付け、さらにキーワード同士あるいは他の歴史的事象と関連付けたり、まとめたりして新たにキーワードを見付け出していく。児童はこの活動で捉えた歴史的事象の特徴を「歴史キーワード」を活用し「考えて分かること」としてまとめ記録していく。この活動が事実に基づいた児童なりの価値判断をし、歴史的事象の意味を考える上で役立つことをねらうものである。

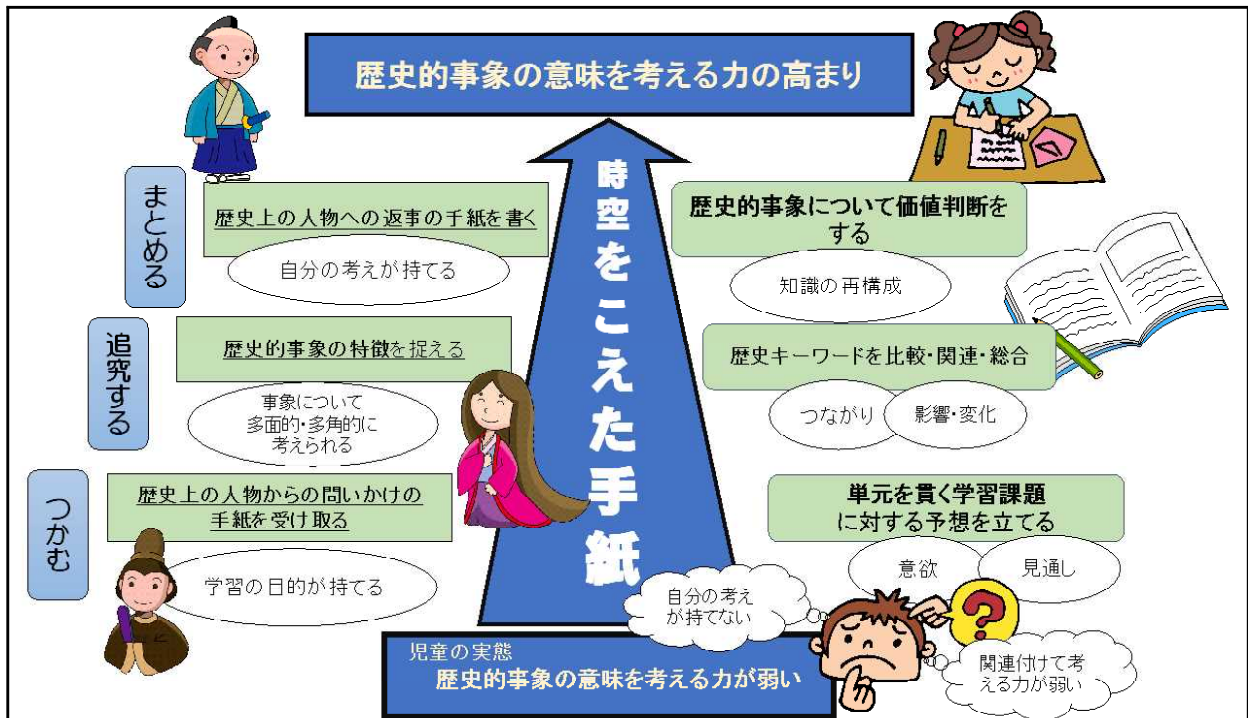
(3) 「時空をこえた手紙」について

本研究では「時空をこえた手紙」を軸に単元の学習を組み立てる。その手紙には二つの機能がある。一つは単元全体が歴史上の人物からの手紙への返事を書くという目的としての機能。これは、手紙の中に学習課題をつかみ、予想することができる仕組みをつくることで可能になる。もう一つは、歴史上の人物の問いかけに答えるために、歴史的事象について、事実に基づき児童なりの価値判断をすることを促す機能である。この二つの機能により、歴史的事象の意味を考える力を育てる手立てとなると考える。

歴史上の人物からの手紙の作成には、次のことに留意した。差出人となる人物については、課題となる歴史的事象に影響を与えた人物、あるいは影響を受けた人物であることである。これは、歴史的事象に対する思いを強く感じることができ、その思いをつかむことにより児童が共感的に事象に興味を持つことができると考える。また、人物が見られなかった部分あるいは違う角度から見た部分を教えてあげるといった目的意識を児童に持たせることができる。次に手紙の内容であるが、その人物の中心となる歴史的事象に対する思いを書き込み、児童が共感的に歴史的事象に対する興味を持たせられるようにする。そして、歴史的事象の意味を考えることにつながるように、歴史的事象について価値判断を促す問いかけの文を入れ、児童に課題解決の意識を持たせるようにする。時代背景やその時代の出来事、人物に関する情報を入れ、それらが単元を貫く学習課外に対する予想

を立てる上でヒントとなるよう内容を考える。このように手紙に書かれたことが児童の学習に有効に働くように内容を吟味して、手紙を作成していく。

2 研究構想図



V 実践の計画と方法

1 第1回目授業実践

(1) 授業実践の概要

対 象	研究協力校 小学校第6学年 33名
実践期間	平成27年 6月18日～6月25日
単 元 名	武士による政治の始まり
単元の目標	源平の戦いや鎌倉幕府の成立、元との戦いに関わる人物の働きや出来事について調べたことを基に考えたり表現したりすることを通して、武士による政治が始まったことが分かるとともに、武士の政治の始まりの意味について、考えたことを表現することができる。

(2) 検証計画

検証項目	検 証 の 視 点	検証の方法
見通し1	「つかむ」過程において、歴史上の人物からの時空をこえた手紙の記述を基に学習を進めることにより、単元を貫く学習課題をつかみ、課題に対する予想を立てることができるであろう。	ノートの記述 活動状況の観察
見通し2	「追究する」過程において、歴史キーワードを見付け、それらを比較・関連・総合して、考えて分かることを書く活動を設定することにより、歴史的事象の特徴を捉えることができるであろう。	ノートの記述 活動状況の観察
見通し3	「まとめる」過程において、歴史上の人物からの時空をこえた手紙に返事の手紙を書く活動を設定することにより、歴史的事象について事実や捉えた特徴に基づいた児童なりの価値判断を促し、歴史的事象の意味を考える力を高めることができるであろう。	歴史上の人物への返事の手紙

(3) 抽出児童(第2回目の授業実践も同児童)

A	歴史的事象について、自分なりの考えを持つことはできるが、事実を基に考え、表現することが苦手である。「追究する」過程で複数の歴史キーワードの関連を考えた上で、「時空をこえた手紙」を書くことにより、事実に基づいた価値判断をし、自分の考えを表現することができるようにしていきたい。
B	個々の歴史的事象に関する事実を捉えることはできる。その歴史的事象の意味を考え表現することは十分にできてはいない。「追究する」過程で歴史キーワードを使って考えたり、「時空をこえた手紙」を書いたりすることにより、自分なりの価値判断をしながら歴史的事象の意味について、自分の考えを表現することができるようにしていきたい。

(4) 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
武士の政治の始まりについて、そこに関わった人物の思いなどに興味を持ち、意味を考えようとしている。	武士の政治の始まりが果たした役割を考え、事実を基に児童なりの価値的判断をし、それを表現することができる。	資料から調べて分かることを見付けたり、考えて分かることをキーワードを活用してまとめるとができる。	「ご恩と奉公」という封建制度により武士の政治は始まったことを理解している。

(5) 指導計画

過程	時	学 習 活 動	研 究 上 の 手 立 て
つ か む	1	○源頼朝からの手紙を読み、単元を貫く学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">なぜ武士による政治は成功したのだろう</div>	○源頼朝からの「時空をこえた手紙」を提示する。同時に源頼朝の拡大図や武士の暮らしを表した資料を提示し、イメージを持たせる。また、前単元で学習した貴族の生活の様子などと比較させられる資料の活用により疑問を持たせたり、予想をしたりする手助けにもする。
		○学習課題を解決するには、どのような学習が必要か考える。 (予想させる児童の反応) ・武士の政治はどのように始まったのか ・頼朝はどのような人か ・武士はどのような人たちか ・どのように幕府を開いたのか ・なぜ続いたのか ・どんな政治のしかただったのか ・どのくらい続いたのか など	○手紙の内容は、武士による政治について貴族の政治との比較などの視点を持たせ、政治の仕方が大きく変わったことを考えさせるとともに、児童なりの価値判断を促す内容にする。 ○源頼朝からの手紙の内容を確認し、どんなことにポイントを置いて学習を進めていけば返事を書くことができるかを考えさせ、児童が持った疑問などを基に学習課題を作る。
追 究 す る	2	○頼朝からの問いかけに答えるために、次の学習課題について調べたことから、歴史キーワードを見付け、それらを用いて考えて分かることをまとめる。	○調べて分かることの中から重要と思われることを表す言葉を歴史キーワードとし、考えてわかることを書く手立てとする。
	3	①武士とはどのような人たちだったのか	○考えて分かることをまとめて分かることを書くための手立てとする。
	4	②鎌倉幕府はどのように開かれたのか	○ノートには、手紙の相手である頼朝を常に意識させるために「頼朝情報」を見付け、記入させる。
	5	③武士の政治にはどんな仕組みがあったのか ④武士はどのように幕府に仕えていたのか	
ま と	6	○「時空をこえた手紙」・源頼朝への手紙を書く。	○活用する歴史キーワードを「ご恩と奉公」とし、その政治のしかたについて、学習で

め る	得た知識をもとに価値判断をさせる。最後に学習をして生じた新たな疑問を書かせる。
--------	---

2 第2回目授業実践

(1) 授業実践の概要

対 象	研究協力校 小学校第6学年 33名
実践期間	平成27年 9月30日～10月20日
単 元 名	明治の国づくり
単元の目標	黒船の来航、明治維新、富国強兵、文明開化などについて調べ、明治政府が廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ、日本の近代化を進めたことを理解するとともに、日本の近代化の意味について、考えたことを表現することができる。

(2) 検証計画

検証項目	検 証 の 視 点	検証の方法
見通し1	「つかむ」過程において、歴史上の人物からの「時空をこえた手紙」の記述を基に学習を進めることにより、単元を貫く学習課題を課題に対する予想を立てることができるであろう。	ノートの記述 発言等、活動状況の観察
見通し2	「追究する」過程において、歴史キーワードを見付け、それらを比較・関連・総合して、考えて分かることを書く活動を設定することにより、歴史的事象の特徴を捉えることができるであろう。	ノートの記述 発言等、活動状況の観察
見通し3	「まとめる」過程において、歴史上の人物からの「時空をこえた手紙」紙に返事の手紙を書く活動を設定することにより、歴史的事象について事実や捉えた特徴に基づいた児童なりの価値判断を促し、歴史的事象の意味を考える力を高めることができるであろう。	歴史上の人物への返事の手紙

(3) 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
日本の近代化について、そこに関わった人物の働きや思いに興味を持ち、意味を考えようとしている。	日本の近代化が果たした役割を考え、事実を基に自分なりの価値判断をし、それを表現することができる。	資料から調べて分かることを見付けたり、考えて分かることをキーワードを活用してまとめることができる。	明治政府が諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ、日本の近代化を進めたことを理解している。

(4) 指導計画

過程時	学 習 活 動	研 究 上 の 手 立 て
つ か む	<p>○提示された資料から、江戸の世の中から明治の世の中への変化について調べ、新しい国づくりについて興味を持つ。</p> <p>○吉田松陰からの「時空をこえた手紙」を読み、手紙の内容から単元を貫く学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>日本は開国をして変わるべきだったのだろうか。</p> </div> <p>この課題を解決するための課題として</p>	<p>○吉田松陰からの「時空をこえた手紙」を提示する。同時に吉田松陰の拡大図や武士の暮らしを表した資料を提示し、イメージを持たせる。また、明治になって変わった町の様子を、前単元で学習した江戸の生活の様子と比較させ、予想をする手助けにする。</p> <p>○手紙の内容は、日本の近代化について欧米の圧力のもと日本が取らなければならなかった判断について、また近代化していく日本そのものを考えさせるとともに、価値判断を促す内容にする。</p> <p>○吉田松陰からの手紙の内容を確認し、どんなこ</p>

	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;"> 黒船来航をきっかけに日本はどのように変わっていったのだろうか </div> <p>○学習課題について予想を立てる。</p>	<p>とにポイントを置いて学習を進めていけば返事を書くことができるかを考えさせ、児童が持った疑問などを基に学習課題をつくっていく。</p>
追 究 す る	<p>○吉田松陰の問いかけに答えるために、次の学習課題について調べ、歴史キーワードを見付け、それらを用いて考えて分かることをまとめる。</p> <p>①明治維新で活躍した人たちについて ②明治の世の中になり、どのようなことが変わったのか ③明治維新が始められた様子について ④政府はどのような国づくりを目指していたのか ⑤政府の改革に不満を持った人々がとった行動について ⑥伊藤博文がどのような思いを持って大日本帝国憲法をつくったのか</p>	<p>○調べて分かることに中から重要と思われることを歴史キーワードとして活用する。</p> <p>○複数のことに関連する言葉や中心人物は誰かなど関連付けが図れるかといった観点でキーワードを見付けさせる。</p> <p>○調べた複数の情報に共通する特徴をキーワードとして考えさせる。</p> <p>○キーワード同士の関連やキーワードと他の事象との関連を考えさせる。</p> <p>○歴史キーワードを活用させ、考えて分かることを書くための手立てとする。</p> <p>○ノートには、歴史的事象に関わった人物についての情報を書く欄を設け、記入させる。</p>
ま と め る	<p>8 ○単元の学習課題についてまとめる。</p> <p>9 ○「時空をこえた手紙」・吉田松陰への手紙を書く。</p>	<p>○追究する過程で作った考えて分かることを活用させ、まとめて分かることを書くための手立てとする。</p> <p>○①～⑥の考えて分かることに共通点を見付けて関連付けたり、総合したりして、まとめて分かることを書く手立てとする。</p> <p>○考えて分かることやまとめて分かることを活用させ、日本の近代化について、学習で得た知識を基に価値判断をさせる。具体的には、これまで学習してきた日本の政治や文化、人々の生活などと比較し判断させる。また、他の歴史的事象との関係から判断をさせる。</p> <p>○これまでの学習で持った新たな疑問を書かせる。</p>

VI 研究の結果と考察

1 第1回目の授業実践の結果と考察

(1) 「つかむ」過程において、歴史上の人物からの「時空をこえた手紙」の記述を基に学習を進めることは、単元を貫く学習課題をつかみ、課題に対する予想を立てる上で有効であったか。

① 結果

源頼朝からの手紙を読み、その中に「なぜ武士の政治は成功したのだろうか」という学習課題を見付けた。源頼朝が問いかける部分を読めば容易に課題を見付けることができた。その課題に対する予想を考えたところ、「武士が強いから」という意見が多くいた。自分の予想を持つことができない児童も多くいたので、手紙の文の中の、貴族の政治との比較を促す記述や武士の政治にはこれまでにはない秘策があるという内容の記述に注目させたところ、それらを手がかりに、「貴族とは違う政治をしたから」「新しい政治をした」などの予想を立てることができた。次に学習課題を解

決するためにどのような学習をしていけば良いか、学習計画を考えた。児童からは、「源頼朝について調べる」「武士が大切にしたものとは何か調べる」「政治のしかたをどんな風に変えたのか調べる」などが出された。

② 考察

児童に手紙の内容に注目をさせたことで予想の内容は根拠を持つものになった。予想が根拠を持つものになったことで学習計画も課題解決に向かっていく内容になったと考えられる。このことから児童に考えさせたい、学習させたいことをもとに手紙の内容を構成していく仕組みは大変に有効であると分かった。また、返事を書くという目的意識が学習に主体的に取り組む態度を導き出すことが分かった。手紙の内容を構成していく時に、児童が学習課題について多面的・多角的に予想を立てられるように根拠となる要素を配置する必要がある。また、その要素を児童に分かりやすく配置することにも配慮しなければならない。

- (2) 「追究する」過程において、歴史キーワードを見付け、それらを比較・関連・総合して、考えて分かることを書く活動を設定することは、歴史的事象の特徴を捉える上で有効であったか。

① 結果

追究する過程では「武士とはどのような人たちだったのか」「鎌倉幕府はどのように開かれたのか」「武士の政治にはどんな仕組みがあったのか」「武士はどのように幕府に仕えていたのか」の四つの課題を解決していった。最初の授業では、歴史キーワードの見付け方や活用の仕方などを確認しながら授業を進めた。歴史キーワードを見付ける活動は最初はスムーズに行かなかったが、授業を重ねるごとに児童は調べて分かることから歴史キーワードを見付けることができるようになっていった。キーワードが正しく文の中で使われるよう、キーワードの意味を確認した。児童と見付けたキーワードの意味を確認していく中で、キーワードとして適さないものを見分けることもできるようになった。考えて分かることを書く上で、キーワードを活用することが課題解決のために有効であると理解した児童は次時から進んでキーワードを活用していた。考えることがなかなか書けない児童は友達のを参考にさせながら書けるよう指導を行った。「追究する」過程の最後、まとめて分かることを書く活動ではそれまでの学習で出来上がった四つの考えて分かることを黒板に掲示して活用を図った。

② 考察

歴史キーワードの見付け方が分からず戸惑っていた児童に、歴史キーワードを見付ける時には学習課題に戻るという視点を与えることで自分の力でキーワードを見付けることができるようになっていった。つまり、課題解決のためにどの言葉が必要なのかを考えさせた。「なぜそうなったのか」という根拠になる言葉、「どのように」という事象の様子や人々の動きを説明できる言葉に注目していくよう指導を行ったことが有効であった。歴史キーワードを使って考えて分かることを書くことができるようになると、歴史的事象の概要から大きく外れるものは少なくなった。しかし、他の歴史キーワードを関連付け、多面的・多角的に捉えて書けている児童は多くはなかった。このことから「追究する」過程においては、歴史キーワードを見付けるだけでなく、複数のキーワードを関連付けて考える活動を充実させていく必要があることが分かった。その時間を十分に確保するためには調べる活動を効率よくする必要がある。効果的な資料を精選したり、児童に調べる観点を持たせたりするなどの手立てを講じて効率化を図り、歴史キーワードを使って考える時間を十分に取りたい。

- (3) 「まとめる」過程において、歴史上の人物からの「時空をこえた手紙」に返事の手紙を書く活

源頼朝からの手紙

私は鎌倉幕府を開いた源頼朝です。私は武士としての政治をはじめました。政治とはどのように国を治めていくかを考えて行うことです。私の時代の前にもいろいろな政治のしかたがありました。たとえば聖徳太子は天皇中心の国づくりを進めました。十七条の憲法や冠位十二階などのきまりを取り入れた政治を行ったのをみなさんも勉強したでしょう。しかし、私は武士が大切にしているものを利用した秘策を持って政治のしかたをがらりと変えました。その結果、武士による政治は私が死んだ後も江戸時代まで何百年も続いていくのです。武士による政治はなぜ続いたのでしょうか？そして、武士による政治は世の中をどんなふうに変えたのでしょうか？

図1 源頼朝からの手紙

動を設定することは、歴史的事象について事実に基づいた児童なりの価値判断を促し、歴史的事象の意味を考える力を高めるのに有効であったか。

① 結果

源頼朝に「時空をこえた手紙」の返事を書く活動を行った。単元を貫く課題「なぜ武士による政治は成功したのだろうか」について考える時間でもある。児童の記述には「ご恩と奉公」という封建制度の仕組みが果たした意味について、評価する文が多く見られた。「ご恩と奉公」に「領地に対する思い」や「一所懸命」に戦ったことを関連させて書くことができている児童が多く見られた。また、元寇により、鎌倉幕府による政治が崩れていくことについての記述も多く見られた。しかし、武士による政治の始まりという歴史的事象については、その意味を考え記述することができていない児童が多かった。中には既習の天皇中心の国づくりにおける聖徳太子が進めた政治や貴族の政治などとの比較をしたり、戦が多くなったのではないかと世の中に及ぼした影響を考えたりすることができている児童も見られた。

② 考察

児童の記述から、歴史的事象の概要を捉えることができていることが分かる。貴族の政治と比較することで、武士の政治の仕組みのよさを考えることができた。中には既習の天皇中心の国づくりにおける聖徳太子が進めた政治や貴族の政治などとの比較をしたり、戦が多くなったのではないかと世の中に及ぼした影響を考えたりすることができている児童も見られた。価値判断をするときには、他の政治の仕方と比較して考えることが児童にとって有効であろうと考え、既習事項である天皇中心の国づくりや貴族の政治についての記述を書き込んだことが効果的であったと考える。また、平氏の政治との共通点を見だし、源氏や北条氏の政治に批判的な意見を書く児童も見られ、手紙の記述を工夫することで多面的・多角的な見方を持たせることに有効であると分かった。さらに多くの事象あるいはキーワードを関連させて考えることができるようにするためには、「追究する」過程で歴史キーワードを使って考える活動を充実させる必要があることが分かった。

抽出児童A	抽出児童B
<p>頼朝様が考えた「<u>ご恩と奉公</u>」により、<u>強い関係</u>になり、武士の政治が長く続いたそうです。武士は大切な<u>領地</u>を守り増やすため、みな<u>一所懸命</u>に戦って領地を増やしたそうですね。しかし、武士は元というところと戦って勝ったけれど領地がもらえず武士たちは不満をもったそうです。この後は勉強していないので分かりません。ですが、少しでも分かったことがあればうれしいです。</p>	<p>私は武士の政治について、<u>ご恩と奉公</u>の関係により長く続いたと思います。武士の政治の良いところは仲間たちの団結力だと思います。武士により、鎌倉幕府や<u>御成敗式目</u>などを作った武士たちはとてもすごいと思いますが、源頼朝様が死んだ後の元軍との戦いの後、勝ったのに、がんばった武士たちに恩賞なしということはとてもひどいことだと思います。前に習った聖徳太子の政治とは全然違いますけど、がんばった人に恩賞をあげるのは、今のがんばって仕事をした人にお金をあげるのと似ていると思いました。</p>
<p>(分析) 四つのキーワードを使って記述することができている。また、関連付けて記述していると考えられる。しかし、武士の政治について自分の考えを記述することはできていない。</p>	<p>(分析) 自分の考えを書くことはできているが、感想的な記述にとどまっている。二つのキーワードを使っているが関連付けられたものではない。また、「ご恩と奉公」において重要な領地というキーワードが使われていない。聖徳太子の政治との比較も不十分である。</p>

2 第2回目の授業実践の結果と考察

(1) 「つかむ」過程において、歴史上の人物からの「時空をこえた手紙」の記述を基に学習を進めることは、単元を貫く学習課題をつかみ、課題に対する予想を立てる上で有効であったか。

① 結果

「時空をこえた手紙」を読み、吉田松陰が児童に問いかけている部分から単元を貫く学習課題「日本は開国して変わるべきだったのだろうか」を設定した。次にその課題に対する予想を立てた。「変わるべき」と考えた児童は90%、「変わらない方が良い」と考えた児童は10%であった。変わるべきと答えた理由としては、多い順に「外国の進んだ文化を取り入れた方が良いと思うから」「外国に遅れてしまうから」「日本だけ取り残されてしまうから」、変わらない方が良いと答えた理由としては、「時代遅れになるのも嫌だけれど、悪い国もあるかもしれないから」「日本の良いところが変わってしまうから」などが挙げられた。

② 考察

手紙の中には、アヘン戦争で中国を負かした西洋の国の強さや松陰がその西洋の国に興味を持ち、命をかけてまで学びたいという強い思いを記述した。その記述が、開国して変わるべきかどうかを予想する手立てになった

と考えられる。さらに、松陰を通して当時の人が西洋に対して興味を持ったことを知り、予想に反映させることができたと考える。以上のことから、歴史上の人物からの「時空をこえる手紙」を軸に学習を進めることは単元を貫く学習課題を見付け、課題に対する予想を立てることに有効であったと考える。

<p>吉田松陰からの手紙</p> <p>私は吉田松陰といいます。私は長州の下級武士として生まれました。私は武士として幕府や藩の役に立つよう学問に励みながら育ちました。</p> <p>ある時、あの強くて大きな中国が西洋の国に戦争で負け、国の一部を奪われたことを知り、おどろきました。そして西洋の国とはどんなものなのか知りたくまりました。20歳の時、西洋のことを学ぶために九州や江戸へも行きました。私が23歳の時、アメリカからペリーという人が大きな軍艦に乗って日本にやってきました。それをきっかけに私は実際に外国に行きたくて学びたいと考えるようになりました。死を覚悟でその軍艦に乗せてもらい外国に渡ること何度か挑戦しましたが、失敗に終わりました。その罪で牢獄に入れら</p>	<p>れることもありました。でも、それくらい外国に学ぶことが大切だと考えていたのです。</p> <p>その後、私は松下村塾という塾を開いて弟子たちに自分の考えを教えました。しかし、勝手なことをする幕府を批判した罪で死刑になります。残念でなりません。</p> <p>そこでこれから学習するみなさんにお願ひがあります。江戸時代の日本を考えた時、あるいは、みなさんが生きている現在の日本を考えた時、日本はこのとき開国をして変わるべきだったのでしょうか。このことについてみなさんの考えを聞かせてください。</p>
---	--

図2 吉田松陰からの手紙

(2) 「追究する」過程に

において、歴史キーワードを見付け、それらを比較・関連・総合して、考えて分かることを書く活動を設定することは、歴史的事象の特徴を捉える上で有効であったか。

① 結果

「追究する」過程では、「黒船の来航をきっかけに日本はどのように変わっていったのだろうか」という全体像を捉えるために、単元の第2時から第7時までについて、単位時間あたりの学習課題を六つ設定して学習を進めた。単位時間ごとに明治維新という大きな変化に関わる事象についてその特徴を歴史キーワードを用いてまとめていった。また、児童が見通しを持って効率よく学習を進めることができるようノートのパターン化を行った(図3)。

第2時 学習課題「明治維新で活躍した人たちはどのような人だったのだろうか」

「追究する」過程の最初であるため、歴史キーワードを見付けやすく関連付けやすい内容を設定した。明治維新で活躍したといわれる人々から9名を選び、それぞれについて、①出身地、②考え、③主に行ったこと、という三つの観点で調べた。次に「調べて分かること」からキーワードを見付けた。9名の中でも多くの割合を占めていることから「下級武士」、「薩摩藩」、「長州藩」、さらに共通する考え方として「倒幕」というキーワードを出すことができた。また、これらのキーワードに当時の下級武士の生活や外国の脅威と関連させて、「日本を変えようとして」という考えが出された。

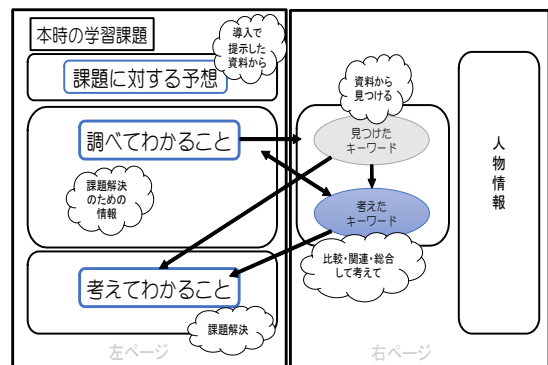


図3 児童のノートの構成

抽出児童 A	抽出児童 B
さつまや長州の下級武士が多く、日本を変えようとしていた。	さつまや長州の下級武士が多く、その中の多くの人たちが倒幕を考え、日本を変えようとしていた。

第3時 学習課題「明治の世の中になって、人々の生活にはどんな変化があったのだろう」

本時は①新しく入ってきたものは何か、②それまでと変わったことは何かの二つの観点で調べ学習を行った。「調べて分かること」から、「文明開化」「西洋」「平等」「自由」が歴史キーワードとして挙げられた。これらを用いて考えていくと、「西洋の文化としたほうが良い」、「平等と自由は関連付けられる」や「新しい考えということも必要だ」というような意見が出された。

表1 「考えてわかること」評価基準

A評価	事象の特徴を正確に捉えられており、複数のキーワードを関連させて記述することができている。
B評価	事象の特徴を正確に捉えられており、キーワードを用いて記述することができている。
C評価	事象の特徴を捉えられていない、あるいはキーワードの使い方が適当でない。

抽出児童 A	抽出児童 B
西洋の文化を取り入れて、新しい学問に学び、人々が平等、自由になったことを文明開化という。	西洋の文化を取り入れ、新しい学問に学び、人々は平等で自由だという考えになった。これを文明開化という。

第4時 学習課題「ペリーの来航によって日本にどのような変化が起きたのだろう」

本時の調べる観点は、ペリーの来航により①始まったこと、②終わったこと、③変わったこと、④庶民にとっての変化、⑤武士にとっての変化とした。「調べて分かること」から、歴史キーワードとして「条約、開国、貿易、江戸幕府の終わり」が挙げられた。これらを用いて考え、条約と開国は強い関連があること、貿易も条約と強い関連があること、貿易と江戸幕府の終わりをつなぐのは「幕府への不満」であり、「生活が苦しくなった」ことであると考えることができた。また幕府への不満と幕府の終わりをつなぐキーワードとして、「新しい政府をつくる運動」が出された。

抽出児童 A	抽出児童 B
ペリーが来航し、アメリカと条約を結び開国した。貿易が始まり、庶民の生活が苦しくなった。幕府への不満から新しい政府をつくる運動が始まり、政権が朝廷に返し、江戸幕府は終わった。	ペリーが来航したことで、条約が結ばれて開国をし、貿易が始まったが、人々の生活は苦しくなり、幕府への不満は高まった。そこで3人の下級武士が新しい政府をつくろうとし、政権が朝廷に返され江戸幕府は終わった。

第5時 学習課題「明治政府はどのような国づくりを目指したのだろう」

本時の調べる観点は①廃藩置県、殖産興業、徴兵令、地租改正がどんな目的を持った政策であったのか、②中心になって政策を進めた人物、とした。廃藩置県で国を一つにまとめたこと、殖産興業では近代的な工業を盛んにしようとしたこと、強い軍隊をつくるために徴兵令を出したこと、国の収入を安定させるために地租改正を行ったことが明らかになった。「調べて分かること」から、歴史キーワードとして、「富国強兵」、「明治政府の改革」が出された。「富国強兵」というキーワードと外国を意識している様子から「強い国づくり」を導き出した。

抽出児童 A	抽出児童 B
明治新政府は強い国をつくるため。富国強兵に力を入れた。また廃藩置県や地租改正などもし、ヨーロッパの国々に追いつこうとした。これらのことをして、強い国づくりを目指した。	強い国づくりをするために廃藩置県で国を一つにし、殖産興業で工業をさかんに、富国強兵で強い軍隊をつくった。

第6時 学習課題「国会はどのようにして開かれることになったのだろう」

本時の調べる観点は①人々がみんなで決める国会が必要だと考えた原因は何か、②このころの世の中ではどんな変化があったか、③その結果起きたことは何か、とした。調べて分かることから、「士族の反乱」と「庶民の生活苦」を関連させて「政府への不満」、国会開設を勝ち取る「自由民

権運動」その中心人物「板垣退助」、「国会開設の約束」が歴史キーワードとして出された。

抽出児童 A	抽出児童 B
政府の改革が原因で士族や民衆が政府に不満を持った。武力ではなく言論で主張する世の中へ変化していき、板垣退助を中心として自由民権運動が広がっていった。これらの動きで政府に国会を開くことを約束させた。	様々な負担により、政府に不満を持った人々が板垣退助を中心として自由民権運動を始めた。そして、ついに国会を開くことが約束された。

第7時 学習課題「大日本帝国憲法と国会開設で日本はどのような国になったのだろう」

本時は調べる観点として、①中心人物、②憲法の特徴、③国会について、の三つを挙げた。調べて分かることから考えた歴史キーワードは、「国会」「憲法」、「天皇が主権を持つ」が挙げられた。これらに伊藤のドイツでの活動や外国との比較により、「外国のような国」、「新しい国」、「近代的な国」というキーワードが導き出された。

抽出児童 A	抽出児童 B
憲法や国会が開かれたことによって、天皇が主権を持ったり、近代的な国になったりした。	国会が開かれたり、憲法ができたことで天皇が主権を持つ近代的な外国のような国になった。

② 考察

実践1の反省に立ち、歴史キーワードを挙げさせた後、それを比較・関連・総合して考える時間を充実させたことにより、歴史キーワードを的確に用いた記述ができるようになった。また、歴史キーワード同士を関連付けたり、総合して考えたりすることで、新しい歴史キーワードを導くことができた。歴史キーワードを見付けるときに理由を考えさせたことが、事象と事象を関連付けたり、総合するとき有効であった。また、関連付けたり、総合したりする活動により、考えて分かることを書く時に的確なキーワードの使い方ができる

表2 評価の割合の分布

	A評価	B評価	C評価
第2時	30%	49%	21%
第3時	11%	21%	68%
第4時	53%	31%	15%
第5時	46%	46%	6%
第6時	35%	40%	25%
第7時	44%	47%	9%

ようにもなった。評価の割合の分布(表2)を見ると、回数を重ねると記述内容が充実していくことが分かる。A評価の割合の多い第4時、第5時、第7時を振り返ると、最初に出された歴史キーワードを用いて関連付けや総合を行い、それまでに出ていないキーワードを考え出すことができた。例えば、第4時では「貿易の始まり」と「幕府の終わり」をつなぐキーワードとして幕府への不満を導き出した。さらに、「幕府への不満」と「幕府の終わり」を関連させて「新しい政府をつくる運動」というキーワードを導き出した。第5時では、「廃藩置県」「殖産興業」「徴兵令」「地租改正」の諸政策を関連付け「強い国づくり」を導き出すことができた。また第7時では、「国会」「憲法」「天皇主権」を関連付け、「新しい国」「近代的な国」などのキーワードを導き出すことができた。このように新たに歴史キーワードを導き出すことができた時には、その記述から十分に考察的に歴史的な事象を捉えている様子が伺える。

以上のことから、歴史キーワードを見付け、それらを比較・関連・総合することは歴史的な事象の特徴を捉えることに有効であったと考える。

- (3) 「まとめる」過程において、歴史上の人物からの「時空をこえた手紙」に返事の手紙を書く活動を設定することは、歴史的な事象について事実に基づいた児童なりの価値判断を促し、歴史的な事象の意味を考える力を高めるのに有効であったか。

① 結果

第8時 学習課題「黒船来航をきっかけに日本はどのように変わっていったのだろう」

手紙を書く準備として、これまで学習してきたことをまとめた。第2時から第7時までの「考えて分かること」を提示し、それぞれを関連付けて中心となるキーワードを挙げていった。「人々の変化」という観点から「下級武士の活やく」、「文明開化」、「新しい学問」、「自由民権運動」が挙げられ、「国の変化」という観点からは「開国」、「富国強兵」、「憲法と国会」が挙げられた。これらの歴史キーワードを関連させ、「人々の変化」と「国の変化」の二つをつなぐ言葉を考えた。そ

の結果、「西洋」、「外国」、さらに「近代的な国」が出された。

抽出児童 A	抽出児童 B
<p>下級武士の多くが日本が変わるべきだと考えた。また、文明開化といって西洋の文化を取り入れた。福沢諭吉によって新しい学問も取り入れた。そして明治政府の政治の不満から国会開設などを求め自由民権運動が広がっていき、国会開設を約束させた一方政府はペリー来航をきっかけに条約を結び開国した。外国に負けない強い国づくりを目指し、富国強兵に力を入れた。また、憲法や国会が開かれ天皇が主権を持った近代的な国になった。これらのことを明治維新という。</p>	<p>下級武士たちが活躍できるようになり、新しい学問などが取り入れられる文明開化が起こった。ペリーが来航したことで、条約を結んで開国した日本は外国との力の差を知り、富国強兵に力を入れた。人々は板垣退助を中心として自由民権運動で国会開設を約束させた。憲法がつくられ、国会が開かれ近代的な国に変わった。これを明治維新という。</p>

第9時 学習課題「吉田松陰へ返事の手紙を書こう」

日本の近代化について価値判断をする活動である。吉田松陰からの手紙を読みながら、内容を確認した。手紙の中で吉田松陰が問いかけている「日本は開国して変わるべきだったのだろうか」という視点で手紙を書く活動に入った。児童は自分の考えの根拠を確認するために教科書やノートを見返していた。

抽出児童 A	抽出児童 B
<p>私は開国して変わるべきだったと思います。理由の一つ目は開国をすれば<u>外国や西洋との貿易</u>ができます。外国の学問や政治など日本より進んだ知識を持っているので<u>近代的な国</u>づくりに近づきました。二つ目は<u>現在の日本では外国との貿易を行っている</u>からです。日本だけでなく、いろいろな国と貿易をすることで様々な考え方ややり方が分かるからです。三つ目は庶民や武士の活やくで考え方を変えました。ですが、庶民や武士は貿易をして苦しみました。<u>苦しんだけれども幕府は終わり、自分たちが政治をして考え方を換えられたので良かった</u>のだと思います。なので開国して良かったのだと思います。</p>	<p>日本は開国して変わるべきだったと思います。なぜなら、日本は開国して<u>文明開化</u>があったからです。このことで西洋の文化が日本に入ってきて、庶民にとっても良かったと思います。でも、貿易が始まり、物価が高くなったことを考えると開国しなかった方が下級武士や町人のくらしはもっと安定していたかもしれません。けれども生活以外で政治でもすごい変化があったと思います。特に国会や憲法をつくったことがすごいと思います。これも<u>西洋の文化</u>なので、<u>開国してこれだけ変わるというところが一番すごい</u>と思います。だから私は開国して変わるべきだったと考えています。<u>けれども変わって良かったところと悪いところがある</u>と思いました。<u>現在の日本は平和で良い国です。今の日本があるのはたぶん、開国したおかげ</u>だと思います。</p>
<p>(分析)貿易、政治、進んだ知識など多面的に近代化をとらえて判断できている記述が見られる。また、庶民からの視点を持つことができている。現在の日本につなげて考えている記述が見られる。</p>	<p>(分析)事実に基づき近代化による変化を肯定的に捉えている部分と否定的に捉えている部分がある。それらを踏まえて判断している様子が分かる。</p>

② 考察

手紙の内容からは全体として「開国して変わるべきだった」と判断した児童が多く見られた。その理由として、近代的な国に変わることができたことを挙げている。その近代化を憲法や国会などの政治面、外国の技術を取り入れることができたことや富国強兵政策によって富岡製糸場のような工場ができていったことといった産業面、外国の考え方を知ることができたなどの文化面など多面的に判断されていたことが分かる。貿易が始まったことによって西洋の文化が入り、豊かになったと喜んだ人たちもいたが、物価の上昇によって生活が苦しくなった人たちも多くいたという点から、開国には良くない点もあったという記述もあったことから、「日本の近代化」を多角的に捉えることができていたと言える。これらのことから、吉田松陰からの手紙の中に西洋に学びたいという松陰の願いや現在の日本との比較などの視点を持たせる記述がいろいろな視点から事象を判断することに有効に働いていると考える。また、第2時から第7時まで歴史キーワードを使って関連付けや総合して考える活動をしてきたことが事象を多面的・多角的に捉えることに有効であった。69%の

児童が多面的・多角的に日本の近代化を捉え理由を挙げながら判断をすることができていた。この中には開国するべきだったという考えとある面では開国するべきではなかったのではないかという考えの両方を持つ児童もあった。これは歴史的事象を多面的・多角的に見ることができたことにより良い影響、悪い影響のどちらもあったと捉えることができた結果と考えることができる。また、開国によって起こった工業の発展や生活の変化などを現在の日本とつなげて考えている記述も多く見られた。

以上のことから、「まとめる」過程において、「歴史上の人物への手紙」を書く活動を設定することは、事実に基づいた批判的思考や価値判断を促し、歴史的事象の意味を考える力を高めるのに有効であったと考える。

Ⅶ 研究のまとめ

1 成果

歴史上の人物との手紙のやりとりを軸に、自分の考えを歴史キーワードを活用して表現する活動を取り入れることは、歴史的事象の意味を考える力を育てることに有効であった。

- (1) 「つかむ」過程において、提示する歴史上の人物からの手紙に手立てとなる記述を入れることにより、単元を貫く学習課題をつかみ、予想を立てることができた。
- (2) 「追究する」過程において、「歴史キーワード」を見付け、それらを「比較・関連・総合」して、「考えて分かること」について書く活動を取り入れたことにより、歴史的事象の特徴を事実に基づいて記述できるようになった。
- (3) 「まとめる」過程において、歴史上の人物からの問いかけに答える返事の手紙を書く活動を取り入れたことにより、児童は歴史的事象について、事実に基づいて判断し、自分の考えを表現することができた。

2 課題

- (1) 「追究する」過程において、キーワードを関連付け、総合して考える活動を充実させるために、多角的・多面的に捉えることができる資料の精選が必要である。
- (2) 歴史的事象について価値判断をより多面的・多角的な視点からできるよう、「追究する」過程において、「政治」「産業」「文化」「社会」という複数の視点を明確にする手立てが必要である。
- (3) 歴史的事象について、さらに別の視点から捉えることができるよう、単元の学習での一度だけの価値判断で終わらせず、学習後も児童が歴史的事象を捉え直すことができるような手立てを研究する必要がある。

Ⅷ より良い実践に向けて

小学校第6学年の歴史分野においては、歴史的事象の意味を考えさせることで社会科の思考力を育てることが大切である。そのためには歴史的事象の特徴を捉えるために考える活動とそれを基に歴史的事象について児童なりの価値判断をする活動を用いることで、歴史的事象の意味を考える力を育てることができると考える。

〈参考文献〉

- ・小原友行 『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン 小学校編』 明治図書(2009)
- ・澤井陽介 『小学校社会 授業を変える5つのフォーカス』 図書文化社(2013)

〈担当指導主事〉

小林 旭 近藤照久